

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

新年に初めて用いる
曆の初曆。作家の吉
屋信子さんは、並ぶ月
日は、またなんの影も
屈託も無く、等しく輝
いていると「初曆知ら

ぬ月日は美しく」と句
に詠んだが、大晦日に
は東京都で初めて10
000人を超える133
7人の感染を確認、全
国の1日当たりの感染
者数が4000人を超
えて過去最多を大幅に
更新。医療崩壊が現実
化し、明るい見通
しのできない気持
ちで新年を迎え
た。

苦境の時ほど、今後の展開を 前向きに考える事が大切だ

元日の毎日新聞の1
面では「中国・闇ワケ
チン流入・日本の裕福
層に接種」の記事が掲
載され、人の命も金次
策、との現実があら
さまにされた。貧富の
実態に、国民がこれか
らどんな行動を起す

のだろうか。接種を受
けた企業経営者の行動
に、誰もが不快感を抱
き、企業関係者や家族
への抗議や企業が生産
に携わった商品への不
買運動も否定できない
と考えてしまうのは、
考えすぎなのだろう

か。
年の初めに言葉にす
る「あけましておめで
とうございませす。俗
説では「めでたい」の
語源は「芽出たし」。
先行きがおぼつかない
が、東京五輪とパリリ
ンピックが迫ってい

る。開催は無理か、と
言うより開催して、世
界を明るくする花を咲
かせようと思ってみて
はどうだろうか。笑顔
で語りつなげる大会に
するには、一人一人の
コロナ禍での行動が大
切だ。綺麗な花を咲か
せるには、成し遂げよ
うに望む情熱と毎日の
積み重ねが大切だ。た
かが一人の取組と思わ
ないでほしい。正月に
1組のネズミが12匹を
産む。親を含め全部が
つがいとなって、それ
ぞれ12匹産むサイクル

を毎日繰り返すと、12
月には約277億匹に
なるという「ネズミ算
式に増える」と急激に
増える、たとえ話もあ
る。オリンピック成功
のために行動を起こし
てはどうだろうか。
昨年12月に開催され
た政府の観光戦略
実行推進会議で、
新型コロナウイルス
感染症の影響で
落ち込んだ観光需要の
回復に向けたプランが
決定された。訪日客の
受け入れ再開に備え、
宿泊施設などの観光地
にある建物改修費の半
額を国が負担する制度
が創設された。補助対
象は、ホテルや旅館、



大町保健所、身近な場所での保健業務の大切さを再認識する

飲食店、土産品店を想
定し、自治体等が実施
する場合などを想定し
ている。外部資本が積
極的に投資する可能性
のある魅力ある制度だ
けに、これからの地域
の在り方に自治体は前
向きに取り組んでみて
はどうだろうか。
(信州地域社会フォー
ラム会員・白馬村森上)